

Y05a            **プロジェクト型アウトリーチ活動における大学生の学習効果に関する質的研究：高校生向け天文学者職業体験企画（もし天）に焦点を当てて**  
                    田中幹人（東北大学）

本研究の目的は、東北大学と仙台市天文台が毎年協働開催している高校生向けの天文学者体験企画「もしも君が杜の都で天文学者になったら。。。 (略称：もし天)」が、高校生の支援にあたる大学生にとってどのような学びと成長の機会になりえているのかを解明することである。

近年、行政機関によって求められる大学生のジェネリックスキル育成や、大学生の発達課題であるアイデンティティ形成は、正課教育と正課外教育のバランスが大事であると言われている。そこで、大学生の参入が活発である正課外教育でのアウトリーチ活動に着目し、「もし天」で高校生をサポートする大学生に焦点を当てて事例研究を行った。研究の方法は、(1) 活動を通じて得られる大学生の学びや成長はどのような過程で生まれるのか、(2) 活動において大学生はどのようにして役割を獲得し活動が進んでいくのか、という2つのリサーチクエスチョンを立てて、もし天に参加する2名の大学生に対して半構造化インタビューを行った。そして、インタビューを録音したICレコーダーから逐語文字化を行い、オープンコーディング、軸足コーディングを繰り返すことによってカテゴリー生成を試みた。その結果、大学生は他の大学生や高校生との関係を構築しながら活動を進めていく中で、他者の観察や自己省察を繰り返しながら役割を獲得し果たしていた。また、大学生の役割に対する教員の介入の影響もみられた。最終的に、それらが複合的に関連し合うことで自己成長（知識の習得、社会性）、やアイデンティティ形成が行われていることが明らかになった。本講演では、2名のライフヒストリーを紹介しつつ詳細結果について報告する。